



宮地遺跡群

(みやじいせきぐん)

宮地遺跡群は南区城南町の台地上に広がる遺跡です。熊本平野南部を代表する弥生時代の遺跡として著名です。

青銅器の出土も豊富で、合併前の旧町時代に巴形銅器・貨泉・小型鏡がみつかっています。また舟形注口土器は特に有名です。

熊本市との合併後は、3回の調査を行っています。1次調査は遺跡の西側で行われ、弥生中期の住居を多数確認しています。2次調査では弥生中期の甕棺墓、3次調査では後期の木棺墓・土坑墓が出土しています。いずれの調査においても弥生時代の遺構が大半を占めています。

ほかの時代では古墳時代・平安時代などの遺構もみつかっています。さらに、奈良～平安時代と考えられる南北方向の道路があり、これは西海道駅路の可能性が高いです。



出土した壺

よく見ると赤い縦の文様があります。



穂摘み具（石包丁）

稲作の穂摘みに用いられました。